

2021年3月期  
第1四半期 決算説明資料  
(2020年4月～2020年6月)

アサヒホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 經營成績



## 2020年度第1四半期決算のポイント

### 経営成績

2020年度第1四半期  
決算実績

営業利益 53億円（前年同期比+19億円）

2020年度上期/通期  
業績予想の上方修正

**上期業績予想 営業利益 108億円**

※期初予想の営業利益 67億円から+41億円の大幅上方修正

**通期業績予想 営業利益 210億円**

※期初予想の営業利益 160億円から+50億円の大幅上方修正

※4期連続での**過去最高益更新**となる見込み

### 経営施策・トピックス

株主還元

※配当性向50%以上目途  
※安定的な配当を実施

**増配 年間140円→年間160円**

※前回予想から年間20円の増配

北九州焼却炉の更新

アサヒブリテック北九州事業所の焼却炉更新

※1日あたりの処理能力90トン

※廃熱利用によるサーマルサイクルを通じて地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献

会計方針の変更

※2020年度決算より

北米事業のメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更

※ 2019年度まで「金融費用」→2020年度より「売上原価」

※ 比較係数となる前年同期の数値も会計方針変更を反映

2

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度第1四半期の営業利益は53億円となりました。前年同期実績を19億円上回る大幅な増収増益となりました。
- 第1四半期の業績が期初の計画を大幅に上回る結果となったことをふまえ、2020年度上期と通期の業績予想を大幅に上方修正します。上期の営業利益は期初の予想を41億円上回る108億円、通期の業績予想は期初の予想を50億円上回る210億円を予想します。4期連続での過去最高益更新となる見込みです。
- 2020年度の年間配当を前回予想の年間140円から年間160円に20円増配します。
- アサヒブリテック北九州事業所の焼却炉を更新しました。新焼却炉の1日あたりの処理能力は90トンです。廃棄物焼却時に発生する廃熱を利用した発電設備を導入し、サーマルリサイクルを通じて地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。
- 2020年度より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更しました。2019年度までは金融費用としていましたが、2020年度より売上原価としています。これに伴い、比較係数となる2019年度の数値についても会計方針変更を反映した数値に変更しています。

## AW 連結業績

**第1四半期実績**：貴金属事業が好調で業績を牽引→大幅な増収増益

**上期、通期予想**：貴金属事業を中心に業績は堅調に推移する見込み

→上期業績予想、通期業績予想を大幅に上方修正

4期連続での過去最高益更新となる見込み

(単位：億円)

	2019 1Q	2020 1Q		2020 上期 (予想)			2020 通期 (予想)		
	実績 ※1	実績	増減	期初 予想	今回 修正	増減	期初 予想	今回 修正	増減
売上収益	303	392	89	690	790	100	1,500	1,650	150
営業利益	34	53	19	67	108	41	160	210	50
営業率	11.1%	13.4%	2.3%	9.7%	13.7%	4.0%	10.7%	12.7%	2.1%
税引前利益	33	53	21	66	107	41	158	208	50
当期利益 ※2	20	36	16	44	73	29	106	140	34
設備投資	8	10	2						
減価償却費	7	6	△1						

※1 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。これに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

※2 親会社の所有者に帰属する当期利益。

3

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度第1四半期は、貴金属事業が好調で連結業績を牽引し、前年同期との比較で大幅な増収増益となりました。
- 営業利益は前年同期と比較して19億円増加の53億円となりました。
- 2020年度上期と通期の業績予想を大幅に上方修正しました。修正後の営業利益は上期108億円（期初業績予想67億円から+41億円）、通期210億円（期初業績予想160億円から+50億円）です。
- 期初の業績予想を大幅に上回る修正であり、通期業績は4期連続での過去最高益更新となる見込みです。

## AW 連結業績（事業セグメント別）

**第1四半期実績：貴金属事業 大幅増収増益**

**環境保全事業 産廃処理量減により減収減益**

**上期、通期予想：貴金属事業 業績は引き続き堅調に推移する見込み**

**環境保全事業 徐々に回復に向うが前期比で減益の見込み**

（単位：億円）

		2019	2020		2020			2020		
		1Q	1Q		上期（予想）			通期（予想）		
		実績※	実績	増減	期初 予想	今回 修正	増減	期初 予想	今回 修正	増減
貴金属	売上収益	246	350	104	605	698	93	1,300	1,433	133
	営業利益	30	53	23	70	105	35	157	199	42
	利益率	12.2%	15.1%	3.0%	11.6%	15.0%	3.5%	12.1%	13.9%	1.8%
環境保全	売上収益	46	42	△4	85	92	7	200	217	17
	営業利益	9	7	△2	11	16	5	33	40	7
	利益率	18.6%	16.1%	△2.5%	12.9%	17.4%	4.5%	16.5%	18.4%	1.9%
連結	売上収益	303	392	89	690	790	100	1,500	1,650	150
	営業利益	34	53	19	67	108	41	160	210	50
	利益率	11.1%	13.4%	2.3%	9.7%	13.7%	4.0%	10.7%	12.7%	2.1%

※ 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。それに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

4

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

### 【第1四半期実績】

- 事業セグメント別にみると、貴金属事業セグメントは大幅な増収増益となりましたが、環境保全事業セグメントは減収減益となりました。
- 貴金属事業セグメントは、国内・アジアの貴金属リサイクル事業分野、北米の精錬事業分野とも業績は好調で、大幅な増収増益となりました。
- 環境保全事業セグメントは、企業活動の自粛やサプライチェーンの混乱によって工業生産が低迷し、産業廃棄物処理量が減少したため、減収減益となりました。

### 【上期、通期業績予想】

- 両事業セグメントとも期初の予想を大きく上回る見込みのため、上期と通期の業績予想を大幅に上方修正しました。
- 貴金属事業セグメントは第2四半期以降も業績は堅調に推移する見込みであり、上期、通期の業績予想は前期との比較で増収増益となる見込みです。
- 環境保全事業セグメントは工業生産活動の再開に伴い、徐々に業績は回復する見込みですが、前期との比較で減益となる見込みです。

## AW 貴金属事業セグメント

### 貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）：

- 第1四半期実績：貴金属回収量の確保、貴金属価格上昇により、増収増益
- 上期、通期予想：引き続き業績は堅調に推移する見込み

### 北米精錬事業分野：

- 第1四半期実績：公共輸送網の乱れなどにより、原料入荷量は減少したが、製品加工・販売や金融取引などが増加したことにより、増収増益
- 上期、通期予想：引き続き業績は堅調に推移する見込み

〔単位：億円〕

	2019 1Q	2020 1Q		2020 上期（予想）			2020 通期（予想）		
	実績※	実績	増減	期初 予想	今回 修正	増減	期初 予想	今回 修正	増減
売上収益	246	350	104	605	698	93	1,300	1,433	133
営業利益	30	53	23	70	105	35	157	199	42
利益率	12.2%	15.1%	3.0%	11.6%	15.0%	3.5%	12.1%	13.9%	1.8%

※ 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。それに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

5  
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

### 【貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）】

- 国内およびアジアを中心とする貴金属リサイクル事業分野の2020年度第1四半期実績は、経済社会活動低迷の影響を受け、パラジウムの回収量は前年同期から僅かに減少しましたが、金の回収量は大きく増加しました。貴金属価格は、主力の金、パラジウムの価格が大幅に上昇しました。その結果、大幅な増収増益となりました。
- 第2四半期以降も業績は堅調に推移する見込みです。

### 【北米精錬事業分野】

- 北米精錬事業分野の2020年度第1四半期の実績は、公共交通輸送網の乱れなどにより、原料入荷量は減少しましたが、製品加工・販売や金融取引などが増加したことにより、大幅な増収増益となりました。
- 第2四半期以降も業績は堅調に推移する見込みです。



## 参考：貴金属回収量及び貴金属価格の推移

### 【貴金属リサイクル 回収量】

〔単位：kg〕

	2019年度	2020年度		2020年度	
	1Q実績	1Q実績	増減	上期予想	前年同期増減
金	4,077	4,447	370	8,754	514
パラジウム	1,683	1,605	△78	3,240	△212
銀	17,556	17,145	△411	31,767	△3,051
プラチナ	939	967	28	1,950	4

### 【貴金属価格（1gあたり）】

〔単位：円〕

	2019年度	2020年度		参考：2020/7/29	
	第1四半期 期中平均価格	第1四半期 期中平均価格	増減	実勢価格	増減
金	4,652	5,950	1,298	6,645	695
パラジウム	4,960	6,986	2,026	7,680	694
銀	54.0	58.1	4.1	83.7	25.6
プラチナ	3,075	2,839	△236	3,267	428

6

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 貴金属リサイクル事業分野における回収量と貴金属価格の推移です。
- 2020年度第1四半期の回収量は、金とプラチナの回収量が増加しましたが、パラジウムと銀は減少しました。
- 2020年度第1四半期の貴金属価格は、金、パラジウム、銀の価格が上昇しました。特に金とパラジウムの価格は前年同期との比較で大幅に上昇しました。

## AW 環境保全事業セグメント

### 第1四半期実績：

- 企業活動の自粛やサプライチェーンの混乱によって工業生産が低迷し、産業廃棄物処理量が減少したため、減収減益

### 上期、通期予想：

- 工業生産の再開により徐々に回復に向うものの、前期比で減益となる見込み

(単位：億円)

	2019 1Q	2020 1Q		2020 上期 (予想)			2020 通期 (予想)		
	実績	実績	増減	期初 予想	今回 修正	増減	期初 予想	今回 修正	増減
売上収益	46	42	△4	85	92	7	200	217	17
営業利益	9	7	△2	11	16	5	33	40	7
利益率	18.6%	16.1%	△2.5%	12.9%	17.4%	4.5%	16.5%	18.4%	1.9%

7

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 環境保全事業セグメントの2020年度第1四半期の実績は、企業活動の自粛やサプライチェーンの混乱によって工業生産が低迷し、産業廃棄物処理量が減少したため、減収減益となりました。
- 第2四半期以降、工業生産の再開により、業績は徐々に回復する見込みですが、前期との比較では減益となる見込みです。



## AW 財政状態

(単位：億円)

	2020年 3月末	2020年 6月末	増減	備考
流動資産	1,876	1,940	64	
<b>営業債権</b>	<b>1,198</b>	<b>1,315</b>	<b>118</b>	営業債権残高および増減額の大部分は <b>北米事業のメタル調達のための借入金見合いの債権</b> 。(詳細は「社債及び借入金」の備考を参照)
<b>棚卸資産</b>	<b>377</b>	<b>395</b>	<b>18</b>	棚卸資産の大部分が貴金属リサイクル事業における <b>貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品</b> 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的</b> 。
その他	301	229	△72	
非流動資産	424	421	△2	
資産計	2,300	2,361	61	
負債	1,608	1,643	35	
<b>社債及び借入金</b>	<b>1,268</b>	<b>1,252</b>	<b>△16</b>	借入金残高の8割超および増減額の大部分は <b>北米事業におけるメタル調達のための借入金</b> 。原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
その他	340	391	51	
資本	692	718	26	
資本・負債計	2,300	2,361	61	

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年6月末の総資産は、2020年3月末と比較して61億円増加の2,361億円となりました。資産では営業債権と棚卸資産、負債では借入金が増加しました。
- 社債および借入金の残高の8割は北米精錬事業におけるメタル調達のための借入金です。また、営業債権の残高の9割は借入金の増加見合い債権です。
- 北米事業では、金融取引を収益の柱のひとつとしており、積極的に推進しています。金融取引の代表的な例は、参考資料のスライド番号15にある「前渡し取引」です。鉱山顧客から受け取った精錬原料を製品化するまでに通常一週間程度を要しますが、顧客によっては、製品化前に製品の返却を希望することがあります。その場合、当社は銀行借入を行った資金により貴金属を購入して返却します。その対価として、前渡し日数に応じた金利を請求します。
- 前渡しに際しては、入荷原料の貴金属含有量を分析し、その範囲内で前渡しを行っています。したがって、実質的な貸倒リスクはありません。また、借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスクもありません。
- 当社グループの棚卸資産の大部分は、貴金属リサイクル事業の原料、仕掛品、製品です。これらも回収と同時に貴金属含有量の分析を行っています。また、貴金属価格の変動については、先物市場でヘッジしており、価格変動リスクはありません。また、棚卸資産が貴金属あるいは貴金属含有物ですので、品質が劣化するリスクはなく、製品化すれば市場で現金化することが可能です。
- 借入金や見合いの債権や棚卸資産により、バランスシートの資産・負債の残高は大きく見えますが、実際にはリスクの低い資産・負債がその多くを占めています。

# AW キャッシュフロー

(単位：億円)

	2020年度 第1四半期	備考
営業CF	△25	
棚卸資産の増減	△18	増減額の内、△16億円が貴金属リサイクル事業における貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品の増減。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的。
営業債権他の増減	△88	増減額の内、△110億円は北米事業のメタル調達のための借入金見合いの債権。借入金は原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的。
その他	81	
投資CF	△9	
財務CF	△35	
短期借入金の増減	△7	増減額の内、△15億円は北米事業におけるメタル調達のための借入金。価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的。
配当金	△27	
その他	△1	
現預金の増減額	△71	

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 営業キャッシュフローは25億円のマイナスとなりました。棚卸資産の増加と営業債権の増加が主な要因です。
- 棚卸資産は、主として貴金属リサイクル事業における原料、仕掛品、製品ですので、品質劣化リスク、価格変動リスクがありません。原料、仕掛品であっても製品化すれば、市場で現金化できます。その意味では、経済的には現金に近いものと考えられます。
- 営業債権は、主に北米事業でのメタル調達のための借入金見合いの債権であり、貸倒リスク、価格変動リスクがない、極めてローリスクな資産です。
- これらの安全資産の増加を除いた営業キャッシュフローはプラスです。

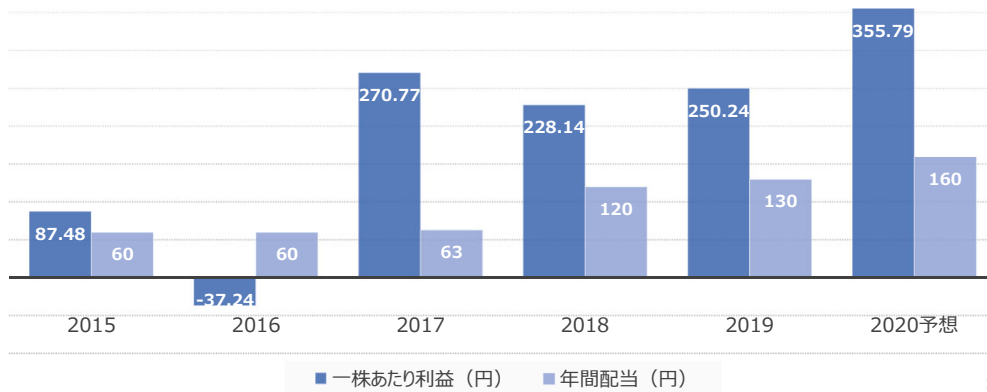
## AW 配当

基本方針：配当性向50%以上をめどに安定的な配当を実施

2020年度：増配 年間160円配当予想

※前回予想 年間140円から20円の増配

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
一株あたり利益 (円)	87.48	△37.24	270.77	228.14	250.24	355.79
年間配当 (円)	60	60	63	120	130	160
配当性向 (%)	68.6	-	23.3	52.6	52.0	45.0



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度の年間配当を前回予想の年間140円から年間160円に20円増配します。
- 基本方針である「配当性向50%以上をめどに安定的な配当を実施する」をもとに、株主還元としての安定配当の実施を目指します。

## 參考資料

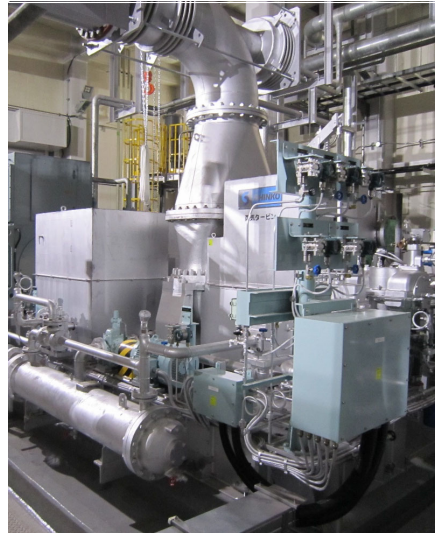
## 焼却炉更新・発電施設新設

- アサヒブリテックが北九州事業所の焼却炉（処理能力90 t / 日）を更新
- 廃棄物焼却時に発生する廃熱を利用した発電設備を導入し、サーマルリサイクルを通じて地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献

焼却炉



発電設備（蒸気タービン）



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- アサヒブリテックが北九州事業所の焼却炉（処理能力90 t / 日）を更新しました。
- 更新した焼却炉は、昨今のエネルギー事情や低炭素時代の背景を考慮し、廃棄物の焼却より得られる廃熱を利用した高効率発電を行うことで、サーマルリサイクルを通じて地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。
- サステナビリティ経営への取り組みの一環として、当該施設の導入に必要な資金をグリーンボンドの発行により調達しています。グリーンボンドとは、地球温暖化対策や再生可能エネルギーなど、環境改善効果のある事業（グリーンプロジェクト）に充当する資金を調達するための債券です。



## 会計方針の変更（2020年度決算より）

- 2020年度決算より、北米金融取引にかかるメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更。2019年度までは「金融費用」として計上していたが、2020年度より「売上原価」に計上する。（※比較係数となる2019年度の決算数値も会計方針変更後の数値に変更）
- 会計方針の変更により、北米金融取引の収益に対する費用が適切に対応し、営業利益がより実態を反映した数値となる。（第1四半期の影響額は以下の通り）

（単位：億円）

	2019年度1Q			2020年度1Q		
	変更前	会計方針 変更 金融費用 →売上原 価	変更後	変更前	会計方針 変更 金融費用 →売上原 価	変更後
売上収益	303		303	392		392
売上原価	△248	△5	△252	△320	△2	△322
売上総利益	55		50	73		70
販管費他	△17		△17	△17		△17
営業利益	38		34	55		53
金融収益	0		0	1		1
金融費用	△6	+5	△1	△2	2	0
税引前利益	33		33	53		53
法人所得税	△12		△12	△17		△17
当期利益	20		20	36		36

13

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

## SDGsへの取り組み

- SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）で定められた17のゴールの中から、解決に向けて当社が貢献すべき課題に対して6つのテーマ・目標を設定し、達成に向けて積極的に取り組んでいる

重点テーマ	内容	重要な指標		
		項目	目標値	19年度実績
1 貴金属リサイクルの拡大	限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属リサイクルをグローバルに拡大・推進します。	①貴金属リサイクル量	2030年度までに410トン	367トン
		②CO2削減外部貢献量	2030年度までに146.5万トン	103.1万トン
2 人・社会・環境にやさしい貴金属供給	人権や環境に配慮した貴金属製品の供給を拡大し、責任ある貴金属管理を推進します。	（各種業界団体の認証を取得するなどの活動を行う）		
3 廃棄物の適正処理拡大	廃棄物処理のエキスパートとして廃棄物の適正処理の拡大に努め、持続可能な循環型社会の実現に取り組めます。	産業廃棄物の適正処理量	2030年度までに50万トン	35.8万トン
4 CO2排出量の削減	グループ全体でCO2排出量の削減に取り組めます。	CO2排出量	2030年度までに2015年度比26%削減	2015年度比9%削減
5 ワークライフバランスとダイバーシティの基盤充実	働き方改革等により、多様な人材が活躍できる基盤を充実させて、働きがいの向上に努めます。	①インターバル勤務11時間以上	2020年度までに100%	98.3%
		②リフレッシュホリデー（3日連続）	2020年度までに100%	98.2%
		③女性従業員における管理職比率	2030年度までに男性における管理職比率と同等水準	3.88% （男性18.6%）
		④障がい者雇用率	2.5%	2.07%
6 SDGs活動の奨励・支援	個人・グループによるボランティア活動等、本業以外でのSDGs貢献活動を奨励・支援します。	（のべ件数 68件（2018年/2019年））		

14

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 当社のSDGsへの取り組みです。
- SDGsで定められた17のゴールの中から、解決に向けて当社が貢献すべき課題に対して6つのテーマ・目標を設定し、達成に向けて積極的に取り組んでいます。

## 貴金属事業の主な収益要素

### 貴金属リサイクル事業：

- 精錬手数料は固定的な安定収益。そこに収率差異による収益がプラス。

### 北米精錬事業：

- 精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。</li> <li>■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。</li> </ul>
	収率差異（実収率と契約収率との差異＝フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 精錬原料（ドーレ）の入荷量が増えれば手数料は増加する。</li> <li>■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。</li> </ul>
	収率差異（実収率と契約収率との差異＝フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。</li> <li>■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。</li> <li>■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。</li> <li>■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。</li> </ul>

15

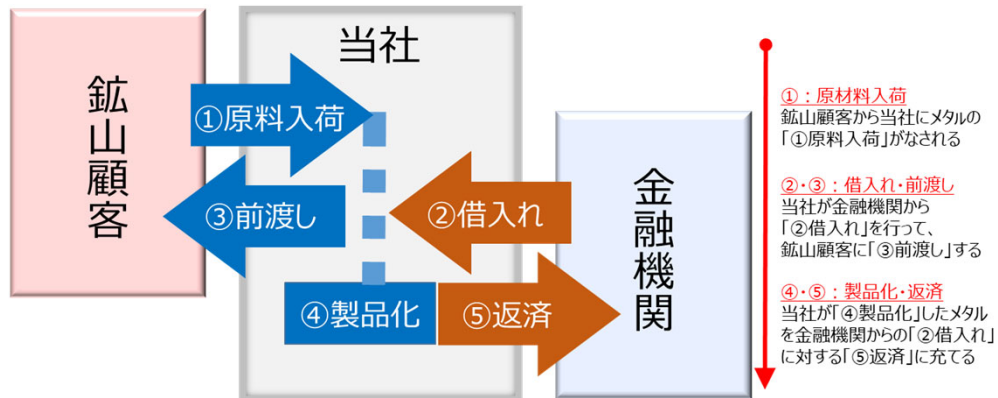
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



## AW 前渡し取引（北米金融事業の代表例）

前渡し取引：北米の貴金属精錬取引では顧客の鉱山会社から預かる原材料について、通常は入荷から製品の返却まで約 1 週間掛かるが、顧客によってはそれよりも早期での返却を希望されることがある。この要望を受けて、通常の納期よりも早期に製品を返却することで、顧客の鉱山会社から「前渡し日数に応じた金利の支払」を受領する取引。原則として原材料を受領してから前渡しを行うため、貸し倒れとなるリスクは極めて限定的である。

■フロー図：原材料入荷～前渡し～返済

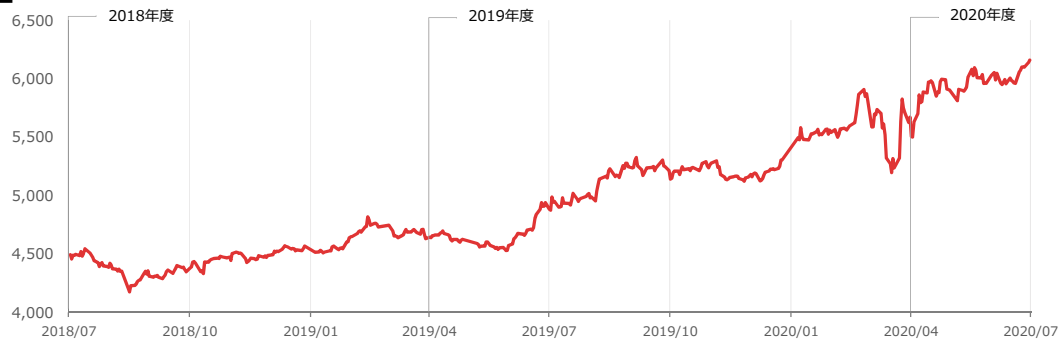




# 金属価格推移 [ 金・銀 ]

(単位: 円/g)

金



銀



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



## 金属価格推移 [パラジウム・プラチナ]

(単位: 円/g)

### パラジウム



### プラチナ



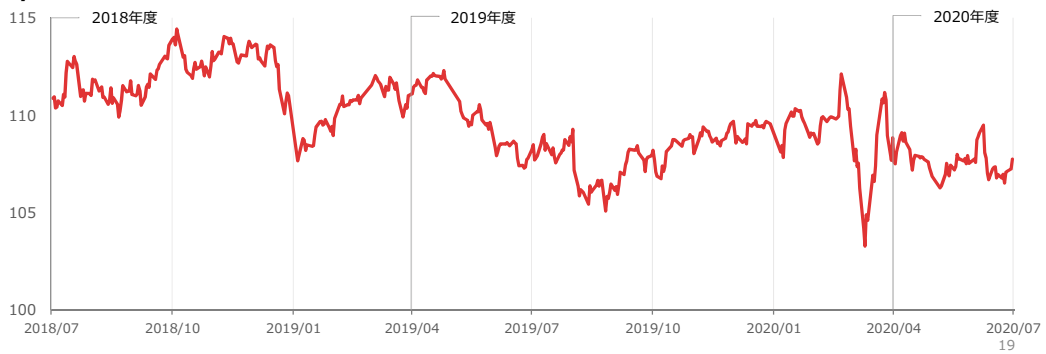
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

# AW 価格推移 [ 金USD / Toz , ドル円 ]

## 金 USD / Toz



## ドル / 円



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.